

告示	番号	41	慢性心疾患
	疾病名	大動脈弁狭窄症	

大動脈弁狭窄症

だいどうみやくべんきょうさくしょう

概念・定義

大動脈弁の狭窄により左室から大動脈への駆出に支障をきたす先天性心疾患。大動脈二尖弁の有病率は2-3%とも言われ、大動脈弁に異常を有する人口は少なくないが、小児期に発症するのはその一部である。重症例では新生児期・胎児期から重症心不全（低心拍出）を呈する。軽症例では無症状であるが、軽・中等症においても加齢とともに進行することが多く、運動時息切れ、易疲労感から運動時胸痛、失神を認めることがあり時に突然死を起こす。中等症以上に、カテーテル治療か、外科的治療（外科的交連切開術あるいは弁置換術）が必要である。

症状

重症例では新生児期・胎児期から重症心不全（低心拍出）を呈する。軽症例では無症状であるが、軽・中等症においても加齢とともに進行することが多く、運動時息切れ、易疲労感から運動時胸痛、失神を認めることがあり時に突然死を起こす

治療

基本的には、カテーテル治療か、外科的治療（外科的交連切開術あるいは弁置換術）が必要である。経皮的動脈弁拡張術は外科的介入までの期間を延期できる可能性がある。人工弁置換術のあとは抗凝固療法が必要となる。

新生児期に重症心不全を呈する大動脈弁狭窄では左室が低形成で体心室として使用できない場合があり、Norwood手術からFontan手術が行われることがある。

感染性心内膜炎に罹患すれば予後不良のことがあり、予防は必要である

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_62_92.html